



この作品はみどり愛育園通所部門「てくてく」に通う、
重い障害を持つ青年たちの作品です。

何よりも特徴的なのは、地域障害児者すべてを対象とする療育・医療への取り組みです。西・北多摩地区(十三市町村)の発達健診には、医師・訓練士達が参加し、この地域に産まれた障害のある子ども達のほとんどが、私どもの支援を受けて育つという実績が続いてきました。さまざまな障害児者通所・通園施設へ専門職員を派遣し、現在では社会的課題にもなりつつある汎性発達障害などの早期療育・教育支援も担っています。これらの障害医療・療育を地域社会として構築することが、全国的な課

新たな年が始まりました。皆様方にはご健勝のこととお慶び申し上げます。
障害児者の医療福祉に携わってきた鶴風会の事業も、半世紀弱という年月の中で、大きな変革を遂げてきました。脳性麻痺児の早期発見・早期療育から始まり、その対象は重症心身障害児者に広がりまし。さらには施設から地域支援への総合療育への発展が事業の主要課題になりました。当然のことながら自閉症や学習障害、ADHDといった軽度障害のお子さん達にも対応してまいりました。

新年を迎えて

総括施設長 鈴木康之



No.18 (平成21年)
社会福祉法人 鶴風会
東京小児療育病院
みどり愛育園
西多摩療育支援センター
後援会
一連絡先—
東京都武蔵村山市学園4-10-1
電話 042(561)2521(代表) 〒208-0011
東京小児療育病院内
Eメール tcrh@kakufuh.com

理念

私達は
障害児者の生命機能の維持
向上と生活援助のため誠実に
積極的に取り組み障害児者と
その家族を支援します

1頁	新年を迎えて
2頁	ノースカロライナ大学研修報告
3頁	「不作為」を失くし清々しい環境に
4頁	第三十五回東日本重症心身障害児施設協議会
5頁	厚生労働大臣賞を受賞して
6頁	ボランティアの方々のご協力により
7頁	後援会だより
8頁	ご寄付者名簿

題になっていく時代に、すでに先駆けて実践してきたことは、鶴風会事業の知られざる大きな実績と考えております。
重度障害児の入所・在宅支援に関しては、施設の総力を挙げて取り組んできました。通園参加者の明るい笑顔、入所者の社会参加の実績、どれをとっても、職員の子ども達を思う心が支えてくれた輝きがあります。在宅重症児者の緊急入所は都内(おそらく全国)随一の実績になると思います。その結果、多くの重度障害の方達の生命が守られ、高い生存率を保っているのだと思います。
数字としては表れることのない鶴風会事業ですが、あらゆる障害児とそのご家族にかけがえない豊かさを提供し続けようと努力しています。その事業を支えてくださっている皆様に、心からお礼申し上げますとともに、国が主導する新たな改革(私どもは二十三年改革案、と呼んでおります)の中で、私ども事業が継続し発展できるように願っております。皆様方におかれましても、今まで以上のご理解とご支援、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

ノースカロライナ大学

TEACCH研修報告

総括施設長補佐 椎木俊秀

平成二十年八月五日から八月十四日まで自閉症児・者の世界的に有名な治療・教育プログラムの一つである米国ノースカロライナ大学TEACCHの研修ツアーに参加した。児童精神科医の佐々木正美先生を団長に園や学校の先生、施設の職員を中心に総勢三十六人（うち通訳二名）のであった。

【TEACCHの概要】TEACCHは Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped Children（自閉症および近縁のコミュニケーション障害の子どものための治療と教育）の略で一九六三年にノースカロライナ大学の故エリック・シヨプラー博士を中心にして同大学のTEACCH部が州政府の資金援助を受けながら開発したプログラムで、自閉症が親、特に母親の育て方の問題という考え方が医学界でも支配的だった時代に、自閉症とは育て方の問題ではなく脳の機能障害であるという考えを明確に打ち出した。TEACCHの第一の特徴は協力、共同を重視し親御さんも自閉症児・者の共同治療者だという考えである。第二はライフサイクルに応じた最も適切な支援を生涯にわたって提供する包括的なプログラムで幼児期・学童期のみならず卒業後もどんなに重度の自閉症者でも自立

生活、就労ができ、余暇活動を楽しめることを目標にしている。第三に自閉症児・者の方たちがどのように理解し思考し学習するかなどの特性をよく理解し、構造化された指導を重視している点である。構造化とは例えば我々も使っているスケジュールとか掲示などのように周りの状況を視覚的に分かりやすくし、見通しを持ちやすくする技法である。自閉症児・者にまず我々が近づき、安定した生活を確立し、そして少しずついろいろな能力を獲得していくことを重視している。

【研修内容】六日の午前中にノースカロライナ大学医学部精神科教授でTEACCH部長のゲイリー・メジボフ博士にTEACCHの事業についての包括的な説明を受けた後、午後からはグループホームの見学を行った。中等度から重度の知的障害を持つ自閉症の方が職員の援助を受けながらも自立に近い形で生活されていた。一人ひとりの特性にあった構造化や支援がなされていて、落ち着いて生活している様子が印象的であった。

七日には援助付就労の現場を見学した。大きなコンピュータの会社だったが、そ



ゲイリー・メジボフ博士から修了証書を頂いているところです。

れぞれの方の特性をきちんと評価したうえで支援プログラムが個別に用意されていた。八日は講義があり、午後から生活学習センターを見学した。自然の中に暮らしながら、畑作業をしたりの人びり暮らしている様子が新鮮だった。十日の夜にはメジボフ博士、TEACCHシャーロットの若き責任者ジョイス・ラム博士を始めTEACCH

を始めるTEACCHシャーロット・スタッフとの夕食会があった。スタッフのお母さんのお家で、手作りの料理をいただきながら心温まるひと時を過ごした。自閉症児・者の方たちを心から愛しそして共に努力している人たちにも暖かい手を差し伸べようという気持ち

ひしひしと伝わってくるひと時だった。

十一日は自閉症の評価方法（PEP-III、TTAP）についての講義と実演があり、評価の重要性が繰り返し強調された。正しい評価なくして適切な支援なしということ

ことを改めて痛感した。十二日はアルバマール市で自閉症者のための会社の責任者であるダウン・アレックスさんの案内でマーケット・ステーション、農園、グループホーム、デイ・サー

ビス、アパートなどを見学した。しっかりと支援を行いながら、りっぱに経営も成り立っているというのには驚いた。午後からは市長さんのお家でレセプションがあり、夜は地域の病院でアレックス市長さん、関係者との夕食会があり、十四日に帰国した。

【感想】行政の支援も日本より強いが、それも一朝一夕でできたものではなく、親御さんたちが家族会を立ち上げ、積極的に行政や地域に働きかけ、それに答える多くの専門家や支援者との共同努力の結果、ここまでたどり着いたと強調されていた。しかし、気負ったところはなく自然で、いろいろな考えや試みを歓迎し、あせらず着実に歩を進めているように感じられた。その根底には自分たちの仕事に対する誇りと自信があるように思われた。

しっかりとしたビジョンを持ち、科学的な視点で現状を分析しその結果に忠実に従う冷めた科学の目、違いを乗り越え共感・共生を求め暖かい心、そしてどんな困難があろうと将来を見据えたじろがずに協力、共同を重視し地道に実績を積み上げていく強い意志、そういうTEACCHの本質こそ我々が真に学ばべき点だと強く感じた。具体的にはよりよい診断・評価システムを開発し、特に幼児期の指導を強め、就学前に家族が障害受容ができ、児の特性に応じた対応が確立でき、スムーズに就学につなげていけることが必要である。そのための早期診



自閉症者のグループホームの見学

断、園や施設に対するコンサルテーションも重要である。就学後もライフステージに応じて生じてくる心理・行動的な諸問題に適切に対応できることも重要課題の一つである。就労やグループホームなど学校終了後の課題も他施設との協力関係を強めながら取り組む必要がある。米国と日本では文化や状況や制度の違いもあり、米国のやり方が日本に適合するわけではないが、冒頭に述べたTEACCHの哲学、あるいは支援を進めていく方法などに共通点や参考になるところが多く意義のある研修であった。

「不作為」を失くし清々しい環境に

理事長 五島磋智子

広辞苑によると「不作為」とは、行為の一種で、あえて積極的な行動をしないこと。失火を放置する、立ち退きをしないなどがその例。とあります。

昨年は身勝手な事件で多くの人の命が失われました。秋葉原での殺傷事件のように、「誰でもいいから殺したかった」などと正気の沙汰とは思えない人種が増えていきます。自分がムシヤクムシヤしてしようと、何でもうまくいかず悩んでいようと、他人に危害、損害を与える行為は間違っていることを幼児の頃から学ばなかったのでしょうか。

しかしこの種の積極的な悪事は「作為の罪」で誰にも解り易く、犯人も特定しやすいでしょう。それに比べ、「不作為の罪」は被害も直接表れずに経過することも多く、責任を問うのが難しい場合もあり、知らぬうちに被害が拡大して大勢の人を苦しめたりするので、「作為の罪」よりたちが悪いといえます。

昨年から大騒ぎとなっている年金の問題も役所がやるべき仕事を正確に行っていないかった許し難い「不作為の罪」です。その上、資料や数字の改竄など「作為の罪」が重なって、長年の経過の間に問題は一層複雑となり、解決のメドも立ちません。積み立ててきた年金がどこかへ消えてしまえば取れないまま亡くなる方もあり、大きな国家的な犯罪なのにな

為に関った人は多すぎて責任を特定することは難しいようです。

人は自分を律する心構えがないと安易な方へ流されてしまいます。ジュースの空き缶を収集箱に入れることが面倒で放置する。人の手助けなどは見えぬふりをしてなるべく手を出さない。という人が増えているのは確かなようです。その上周囲にもそれを見逃ごすという不作為の行為がそれを助長しています。

近頃は注意をされると逆ギレする者がいる程、人格の劣化は進んでいるようなので、このままだと好転のきざしは見えてきません。

私達も知らないうちに自分の不作為で周囲に迷惑をかけないよう常に心しなければなりません。せめて自分のまわり家庭や職場を思いやりに満ちた清々しい環境にしていきたいと思うのです。



東邦会千葉県支部長と会員の来訪

二〇〇八年十月二十五日(出東邦会千葉県支部長、深沢規夫先生が、四名の会員の先生方と共に来訪され、施設の総括施設長補佐の椎木俊秀先生からの説明のあと、東京小児療育病院・みどり愛育園を視察されました。

その後、西多摩療育支援センターに移り、鈴木康之総括施設長の案内で、センターを一巡された。同行の島田敏雄先生(法人評議員)からご寄付がありました。(法人事務局、柴谷記)



東邦会千葉県支部の皆様

第三十五回東日本重症心身障害 児施設協議会の開催報告

みどり愛育園 園長 長 博雪

第三十五回東日本重症心身障害児施設協議会は十一月六日（木）、七日（金）の両日にわたり、立川市のクレストホテルで開催されました。今回は、東京ブロックが当番であり、みどり愛育園が事務局となり準備を進めてきました。「重症児施設の役割と今後の方向：変革の時代の中で」というテーマで百五十名を越える、東日本の六ブロックより、重症児施設の施設長、事務長、看護部長ら関係者が参加し、シンポジウム形式で討議が行われました。

最初に厚生労働省の青木 健障害福祉専門官より、行政説明。シンポジウムでは、横浜療育医療センター理事長の日浦美智江先生より、長期間にわたりご自身が関与されたケースを紹介になり、重症児施設、重症児通園のさまざまな問題をお話くださいました。姫路市総合福祉通園センターの宮田広善先生は、「肢体不自由児通園施設の現状と課題」という演題でお話を頂きました。第三席北信園城障害者相談支援センター 福岡 寿先生からはコーディネーターの立場から、地域での障害者支援のさまざまなネットワークの構築の必要性、すすめ方を熱く語っていただきました。第四席高橋和俊先生からは障害者リハビリテーション施設における発達障害外来での現状と課題

についてお話いただきました。

二日目の特別講演では末光 茂先生より、診療報酬改訂の成果、次回改定に向けた課題、障害者自立支援法導入後の現状と課題、障害児支援の見直しに関する検討会の報告、重症児施設が今後どう変わってゆくべきか、グループホームの問題、重症児通園の問題等もお話頂きました。恒例のアンケート調査では、今回は従来より各施設での骨折の問題のほか、悪性腫瘍の発生状況について、また各施設での地域支援の状況についてアンケートの報告がありました。その後、閉会式、昼食を挟み、二コースに分かれての施設見学へむかいました。

大会を開催するにあたり、二年間にわたり綿密な準備をして頂いた事務局の皆様、お手伝いを頂いた皆様がたに厚く御礼申しあげます。



長 博雪 会長



会 場 風 景



長 博雪 会長 鈴木康之 総括施設長

日本女医会 東京都支部連合から寄付

評議員 小川昭子

平成二十年（二〇〇八）十一月八日（土）ホテルニューオータニにおいて日本女医会東京都支部連合の総会が開催され、同会の、社会福祉事業として社会福祉法人至誠会保育園と、鶴風会にご寄付を頂戴いたしました。

会長中山年子先生から至誠会保育園の小暮美津子理事長、鶴風会の加藤光子先生（理事長海外出張のため）に、それぞれ十万円のご寄付がありました。

この資金は、同会が年に数回、会員の皆様が観劇会の切符の売り上げ金の中から捻出されているもので、会員の皆様の日頃のご努力による尊いお金であることを、皆様にご紹介しこの施設が多くの方に支えられていることに深く感謝いたします。



加藤光子先生 中山年子会長

厚生労働大臣賞を受賞して (栄養指導功労者)

栄養科長 管理栄養士 大塚周二



この度、多摩立川保健所の推薦により栄養指導功労者として厚生労働大臣賞を頂きました

た。当施設での栄養管理業務を通じて受賞できたことは鶴風会で尽力される諸先生方のご指導と、職員、父母会、後援会の皆様のお力添え、さらに栄養科スタッフの全面的な支えがあったからに、ほかなりません。また、私が多摩立川保健所地区の集団給食施設協議会の役員として三十年以上に亘り栄養改善の普及活動に参加していたことが受賞に繋がったようです。

振り返れば早いもので、私が鶴風会にお世話になってから三十四年目を迎えています。入職当時に障がい児(者)と初めて接して口から上手に食べることで、鼻腔から流動食の注入をしている情景を見ました。まず驚いたのは強制栄養という言葉でした。これは手作りの流動食(パン、卵、人参、豆乳、牛乳、ほうれん草を加熱調理してからミキサーにかけて裏ごしをする)を強制的にシリンジで鼻腔から胃に注入する栄養方法であり、当時は既製品の半消化態流動食、経腸栄養剤が開発されていないため、施設が独自で作成していたのです。このよう

な栄養管理をどのようにすれば良いか悩んだ時もありました。しかし、食事をしているときの子どもの笑顔を見て食事が一番の楽しみであることがわかり、食事に関する全ての要望に応えてあげたいと思いました。

懐かしく思う方もいると思いますが当初は職員給食(食べ放題のカレーライス、中華丼、手製スープのラーメン、etc)も提供し職員の栄養管理も担っていた時期もありました。しかし利用者さんの嚥下・摂食機能の低下に伴い、きめ細かな栄養管理が必須となり献立業務、調理業務、経管栄養業務、に注力するために職員給食は昭和六十三年に廃止されました。業務の移行後は、まず、摂食・嚥下の機能改善のために食事形態を見直すことにしました。口腔機能の発達段階に合わせるため、献立の本数を増やし五段階の食事形態で提供して栄養改善に努めるようにしました。

その後、平成五年の米の凶作により内地米が不足で外米を使用しなければならぬ時がありました。私も外米を食べたのは初めてです。米屋さんにできるだけ子ども達が食べるのだから内地米を確保してくれるように依頼したのですが、確保できず、やむなくタイ米を使用した経験があります。昨今、中国の農薬入り餃子問題から事故米の流通などの食の安全が取りざたされていますが、やはり利用者さんの視線にたつて安全で美味しい食事提供をするように心がけております。

近年の栄養管理は集団から個人に重点を置くように、平成十八年度に診療報酬の改正により栄養管理加算制度が発足し、利用者さんの栄養状態を評価し、栄養管理計画書を作成することになりました。その評価には、障がい児(者)の課題である低栄養状態の防止、微量元素の摂取量の管理、栄養過剰摂取による肥満対策などの個別に対応した栄養管理が必要です。このような栄養面での改善点を見出すには多職種のスタッフとの連携が不可欠であり、栄養委員会(NST)の場は大変貴重であると考えております。この賞を頂いた励みにより一層、自己研鑽をして利用者さんの健康維持を願い、栄養管理に努めていきたいと思っております。



おめでとう 遠藤翔吾さん 写真コンテストに入選

みどり愛育園通園部 久保秋 聖

みどり愛育園通園青年部に通われている遠藤 翔吾さん(二十三才)が、今年八月に開催された「多摩さくら百年物語 第四回多摩川写真コンテスト」において「自然の部 立川タカシマヤ特別賞」を受賞されました。

昨年度のグループ活動で、ピンホールカメラ作りを行いました。ピンホールカメラとは、箱に小さな穴を開け、日光の自然の光を使って撮影するカメラで、シャッターを押したりピントを合わせたりすることなく、被写体の前に数十分間置いておくだけで撮影できるカメラです。カメラ作りを行った後、グループメンバーみんなで散歩をしながら被写体選びをしました。遠藤さんは、職員・運転士と相談し、園の隣に出来た住宅街の様子を撮影し、その作品が今回のコンテストで受賞となりました。

八月七日の授賞式当日は、登園時からお母様と一緒に、少し緊張した様子で会場へ向かいました。名前を呼ばれ、表彰状を手にした時はとても誇らしげな表情で受賞の喜びをかみ締めているようでした。立川タカシマヤ特別賞は今年から設けられた賞ということで、記念すべき第一号受賞者に選ばれたことも驚きの一つでした。グループメンバーも授賞式に参加し、遠藤さんを応援すると共に、自身

の展示作品を前に笑顔を見せていました。今回のコンテストへの出展により、グループ活動で撮影した作品をたくさんの方に目にして頂くことが出来たことは、受賞した遠藤さんだけでなく、グループメンバー皆さんにとって良い経験となりました。一年間かけて全員でカメラ作りを行い、そのカメラで撮影した一枚が受賞したことは、グループ活動をがんばってきたグループメンバーへのご褒美でもあったのではないかと思います。また、遠藤さんの手作りカメラは、ご家族の皆さんがシールや遠藤さんの好きなアイドルの写真を貼ったユニークなものでした。ご家族の皆さんの通園活動へのご理解とご協力も受賞の要因になったと思います。

今後も、グループ活動だけでなく様々な活動を通して、地域の方などへ通園の活動の様子や成果を目にしてもらえる場を提供し、利用者皆さんの活動意欲を高め、よりよい活動を展開していけるよう職員一同努めていきたいと思っております。



受賞写真

ボランティアの方々のご協力によりセンター祭開催

身体障害者療護施設「楽」

施設長 柳瀬達夫

西多摩療育センターでは、さる十月十二日に、「西多摩療育支援センター祭」(通称・センター祭)が盛大に開催されました。センター祭も第五回を迎え、施設利用者はもとより、地域の皆さまにも継続した行事として根付いてきたと思われまます。

センター祭を開催するには多くのボランティアの皆さんの協力が必要です。イベントショーに出演していただいたボランティア団体、普段からボランティア活動に参加していただいている登録ボランティアの皆さま、地域の社会福祉協議会等のボランティアだよりや各大学・専門学校にお願いしたチラシなどにより集まったボランティアの皆さまなど多くの方の力に支えられております。

今回も総勢百三十名余のボランティアの方々の協力がありました。開会式でも利用者代表の方が「私たちは、ボランティアさんの手を借りなければ、何もできません。協力お願いします。センター祭と一緒に楽しみましょう」と挨拶されておりました。

今回イベントに出演されたボランティア団体は、オープニングに活気のある太鼓を披露していただいた「あきる野もろこし太鼓の会」、例年「みどり祭」に来

てくださっているサンバグループ「ファンタシカ バテリア」、毎年楽しい歌声を聞かせていただいている「二番星」、そして本格的な管弦楽のおなじみ「昭島ウインドオーケストラ」の皆様でした。利用者の方の挨拶どおり、ボランティアの方々のおかげでセンター祭を楽しく開催することができました。

また、センター祭では同時にバザーを開催し、関係者の皆さまより心のこもったお品をご寄付いただきました。それぞれの方には個別にお礼を申し上げているところですが、この場を借りて改めてお礼を申し上げます。皆様のお気持ちに感謝するとともに、改めて皆様の鶴風会へのご支援とご協力を実感した行事でありました。

療育部・介護実習生からのあ便り

二〇〇八年九月介護実習に来院した学生から手紙が届きました。

秋の気配が一段と濃くなつてまいりました。

皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。私は、九月十三日まで実習させていただきました東京家政大学の三瓶由美でございます。

このたびの実習では大変お世話になり、心から感謝申し上げます。実習中は、職員の方々が、非常に丁寧に指導くださり、お忙しい中でも私の質問や相談にも親切に対応してくださいました。そのた

めに、私は二週間の実習で、たくさん学びを得ることができ、また、安心して実習に取り組むことができました。

実習中印象に残ったことは、やはり利用者さんとのコミュニケーションです。西2病棟の利用者の方々如初出会った時は、「反応がないなあ」という感想を持ったのですが、実習日数を重ねるごとに、利用者の方々の表情や動きの小さな変化や、それによる主張に気がつくことができるようになりました。特に、一緒にさせていただいた遠足の際の利用者の方々の素敵な笑顔や目の輝きは忘れられません。

私は今、その命の輝きを支える療育という仕事にとっても魅力を感じています。園で学んだ貴重な体験を生かし、夢の実現を目指してこれからも頑張りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお導きください。最後にもう一度、心から御礼申し上げます。

桜陰学園生徒会より

学校法人私立桜陰学園の生徒会から、学園祭のバザーによる収益金を、昨年引き続き本年も、ご寄贈いただきました。





社会福祉法人 鶴風会
後援会だより

理事 松尾 賢二

このたび村山の編集会議で「後援会だより」の原稿を若い評議員の先生に書いてもらおうとの話が決まりお手紙が送られてきました。若くもない私ですが、若いと言われてうれしく思う気持ちがわかるようになったことにとっても複雑な心境の今日この頃です。もともと動物好きな私ですが、母親が超高齢高齢者となり外出もままならないことから、少しでも心が安らげばいいなと思い犬を飼おうと考えました。しかし犬のほうが長生きしそうで、その後の世話が大変だなどと悩んでいたとき、庭に一匹の野良猫を見つけました。えさを与えているうちにすっかり懐きました。顔に汚いシミがあり、ブチと名付けました。ブチはメス猫で、その後5匹の子猫を生みました。子猫は発育が悪く2匹が死に、残りの3匹がようやく生き残りしました。3匹とも両目に目ヤニがこびり付き、目が開きません。私も一生懸命目薬を点したり子猫用ミルクと哺乳瓶を買ってきて子育てしました。母猫も目が開かない子猫を気にして一生懸命目をなめているうちに1匹の子猫の両眼球が飛び出し落ちてしまいました。何とか一命は取りとめました。他の子猫が活発にジャレているのに目の見えない

子猫はダンボールの中でいつもじっと一匹でぼつんとしていました。買って来たネコじやらしでダンボールのふちをたたくと、音を聞いてとても喜んで無邪気に見当違いのところにジャレて来ていつも遊ぶことを止めませんでした。やがて少しずつ大きくなり、庭デビューしましたが、植木鉢にぶつかったり段差がわからず何度落ちたり躓いたりしながらようやく猫の額のような小さな庭を覚え一匹で過ごせるようになりました。子猫は、白、黄色、黒の綺麗な柄でミーと名前を付けました。仕事があるので、朝出かけるときに庭に放し、夜帰って声をかけると嬉しそうに鳴きながら駆け寄って来て家の中のダンボールに入れて寝かせて日々が続いていました。大きくなり面倒を見るのが大変になり引き取り手を探しましたが、目の見えないミーの引き取り手は見つかりませんでした。結局自分で面倒を見ることになりましたが、ハンディーを背負ったもの、弱いものに対して分け隔てなくする気持ちが大切であることを改めてミーから学びました。そしてその気持ちをもちながら少しでも社会福祉法人鶴風会へのお手伝いが出来ればと思っています。

オルフェの会

平成二十年十二月七日(日)グランドプリンスホテル新高輪・国際館パミール「北辰」において、チャリティコンサート「オルフェの会」が盛大に開催されました。



バザー終了報告

拝啓 日増しに秋が深まる中、ご清栄のこととお喜び申し上げます。先般、施設全面改築借入金の返済と新たな療育機器の充実を目的としたバザーを計画しご支援をお願い申し上げましたところ、早速ご協力を賜りましたことを心から厚く御礼申し上げます。お陰様で、会社・団体等並びに個人様からの多くの御協賛をいただき十月二十六日にバザーを開催いたしました。

当日は小雨まじりのあいにくの天気にもかかわらず、多数のお客様にお越しいただき感会のうちに終了することができ、ご寄付を合わせ約三百万円の収益となりました。経済情勢の厳しいなか、ご支援賜りました皆様様に深く感謝申し上げますとともに、この収益金は、当初の目的にそって借入金の返済等に充てさせていただきますことといたしましたので、ご了承下さいますようお願い申し上げます。

簡単ではございますが、関係者一同感謝をこめてご報告と御礼のご挨拶を申し上げますとともに、今後とも何卒よろしくご支援のほどお願い申し上げます。末筆ながら皆様様のますますのご健康とご発展をお祈り申し上げます。

敬具

社会福祉法人 鶴風会

理事長 五島 瑛智子

鶴風会後援会へご寄付者ご芳名
平成20年6月～平成20年11月
名(五十音順・敬称略)

相沢 ミツエ・青木りう子・浅川 恭行
浅見 薫子・朝山 裕・足立 嘉子
阿部 雅章・阿部 正和・安部 良治
新井 恒子・飯山 恒子・五十嵐いづ子
石田 秀子・一林 繁・伊藤 元博
伊藤 正俊・稲垣 登稔・井上 康子
今井まつ江
医療法人社団明生会セントラル病院
岩瀬 七重・白井 潔子・内 孝
内ヶ崎仁子・宇野 明彦・梅田 嘉明
梅田 寛子・梅田 正法・江口 環禧
桜蔭学園生徒会・大竹 喬二
岡田さと子・小川 昭子・沖野 佳子
奥山 綏夫・小原 明・小原 該一
小原 桂子・鹿島田忠史・勝田三枝子
勝目 幹郎・加藤 葉子・金森 勝士
川上 武子・河津 緑・北野千賀子
鬼頭 秀明・木村 友希・木山 博夫
金親 正敏・久保 修一・黒瀧 俊彰
桑原 耕三・小竹原安見・小竹原良雄
後藤加寿美・小林 一雄・小林登喜子
珈琲 茶羅
国際ソロプチミスト東京―葵
斉藤 眞一・斉藤八重子・先山 隆司
佐藤 中・佐藤 重雄・沢田 菊代
塩野 則次・志島眞理子・島田 敏雄
島田由美子・島津和貴男・末吉 実子

杉本 寛子・鈴木 秀明・スナツク里
炭山 嘉伸・泉水 昇・高月 誠
高槻 義夫・武田 朋子・竹中希久夫
竹中 廣夫・多田 久人・棚橋 雄平
谷 絹子・柁原 宏久・田部 秀山
田宮 親・田宮三鶴代・塚越 実
月花 亮・月本 一郎・月本 伸子
辻本公美子・堤 俊一郎・坪井 康次
壺阪比路里・豊田 道子・長岡 貞雄
中里恵美子・中里 純子・中島 京子
中村 映子・仲村 健一・並木 温
成毛 典子・日本女医会東京支部連合会
西宮 常代・根本 勤・野口 道子
野沢医院募金箱・野村 直子
芳賀恵美子・萩原 ミチ・橋口 玲子
橋詰 直孝・橋本 一栄・畑 靖子
浜田 雅・早川 浩市・林 馨
林 京子・林 佳子・早原 千鶴
原 まどか・原田千鶴子・原田 則雄
原田裕美子・平田 徹・福田 静子
福田 美枝・星 北斗・牧 三樹子
馬嶋 順子・松岡 昌子・松崎 一江
松下 真理・松原 龍弘・松本 誓子
松山 家昌・丸山 和子・丸山 征爾
丸山希美子・三木 純子・美島 利通
水落 笙子・水吉 秀男・水野 惇子
水野 孝子・三宅 三・村井 昌允
村上リョウ・村川 勉・村川 杏奈
村川 公一・村川世津子・向山 徳子
向山 秀樹・向山 和代・茂木 瑞恵
百瀬せつ子・森 克彦・森 勉

森 紘子・盛川 洋一・諸富 杏子
柳田 謙蔵・矢野 春雄・山口 之利
山崎 毅樹・山村 憲・山本みどり
山谷 登・横田 卓史・横山ちとせ
吉崎千代子・吉田 正己・吉見 梓
社会福祉法人鶴風会へご寄付者ご芳名(法人団体個人)
平成20年6月～平成20年11月
名(五十音順・敬称略)
東京都立武蔵村山高等学校 校長 清水孝二
(株)エクセル・サービス
みどり愛育園通園青年部保護者会
東京小児療育病院・みどり愛育園父母の会
父母後援会
阿部美代子・伊藤 あつ・伊藤九一郎
上野 陽子・大貫 淳・大場 幸延
加藤奈津子・上岡 謙夫・小池 時吏
越野 誠一・斉藤 眞・斉藤 雅彦
坂井 明子・佐藤 明子・澤村 まみ
島田 敏雄・杉本 佳枝・瀬野 国男
谷垣 元子・堤 俊一郎・中里由理枝
中村真一郎・藤田 晴之・松岡 秀夫
松尾 賢二・松本 誓子・萬田 仁
森田 恵子・山崎 恵子・山谷 登
吉野 太郎・渡辺 隆行・高橋 孝彦
守田 洋・海老原健介



秩父地方だけに自生する紅色の福寿草